



さらくなたより

発行者 鈴木 忠好
発行月 R元年 11月
No.30

霜月・・・

陰曆名で霜月。霜降る月というわけでご存じのように十一月のこと。木の葉も散り朝夕めっきり寒くなってきました。カレンダーもあとわずかになりました。

まだクリスマスもお正月も来ないうちから巷では「桜を見る会」の話題で大騒ぎです。寒さに向かう中、水害に遭われた方々は、さぞ細かい毎日をお過ごしのことと案じています。

予測のつかない気象状況が起きるのもみな地球温暖化が原因。

アマソンの密林がこの1年間で青森県一つ程の面積が消失したとか。焼き畑や伐採によるものですが、そこは地球の酸素の供給源なので心配です。サンマが高価なくらいはまだ我慢ができますが。

中高齢者の会の広報内容にしては少々スケールがでかすぎますかね。



そんな年寄りがどうにもできない事の心配をよそに、今年もさる菊がきれいに咲きました。大根もネギも豊作。わが会の園芸部の皆さんの努力の賜物です。大したものです。体力不足で畑づくりに参加できない会員は、一生懸命おいしく食べて御手伝いをしております。作る人も作り甲斐があることでしょう、なんて、勝手に思ったりしてますが、有り難いことです。



温泉に行ってきました

秋の一日、温泉券を目いっぱい使い、なりた温泉に。

熱い湯に浸り日ごろの疲れを癒し、酒を酌み交わし、カラオケに興じ、会員同士の親睦を一層深めてまいりました。

会長、副会長の ♪銀座の恋の物語くなどは、プロも顔負けでウットリ！ 大したものでした。



おじいさん！
地球の心配より
その鼻水何とかして
くださいな!!



あれ あったよ!!

たまげるような、何があったのでしょうか？
以前はどこにでもあった「犬の〇〇〇」です。
しばらくの間、見かける事がなく、わが町民も大したものだと感心しておりました。
久しぶりにそれを見かけた会員の、驚きの声です。